

アーカイブズ

# ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第17号

2002年2月11日発行



## 「馬到成功」タペストリー

この五頭の馬が駆ける姿のタペストリーは、平成7年の沖縄県公文書館の開館記念に中国第一歴史档案館より寄贈されました。「馬到成功」というのは、中国の言葉で“仕事を始めるとたちどころに成功する”たとえに使われます。(高120cm×幅195cm)

## 各種展示会の開催

アーチ  
フラッシュ

### 企画展「写真にみる近代の沖縄」

平成13年10月19日～11月25日の期間、世界のウチナーンチュ大会記念企画展「写真にみる近代の沖縄」を開催しました。明治初期から沖縄戦に至るまでの沖縄の様相を約380点の写真で紹介。期間中31日間で3,965人、一日平均128人の方々が展示会にいらっしゃいました。好評により展示期間を12月23日まで延長しました。



### 伊平屋移動展「沖縄県公文書館収蔵資料にみる伊平屋」

今年度の移動展は、伊平屋村、伊平屋村教育委員会、伊平屋村歴史民俗資料館との共催で、平成13年12月1日～12月16日の期間、「沖縄県公文書館収蔵資料にみる伊平屋」と題して、伊平屋村歴史民俗資料館で開催しました。約300点の伊平屋村関係資料を展示しました。（右下の写真は、展示写真を見て「私の一族の墓と思います。」と語る新垣さん。）



### 宮古支庁及び八重山支庁普及展

円滑に公文書の引渡がなされるよう、7月の沖縄県庁に引き続き、沖縄県宮古支庁及び八重山支庁にてパネルを用いた展示会を開催しました。



### ようこそ！ オユナさん

平成13年度外務省長期青年招聘事業により平成13年10月16日から平成14年3月7日の期間、モンゴル国立公文書館上級専門家のChuluun Oyunchimegさん（オユナさんと呼んでいます。）が沖縄県公文書館で研修しています。お互いの専門知識を高めて行く良い機会となっています。左の写真は、フィルムエンキャプレーションによる資料保存作業中のオユナさんです。

## 第6回市町村文書担当者研修会

県内市町村の文書担当者が公文書管理業務について、理解を深める為の研修会です。本年度は平成13年11月5日に開催し、21市町村31人が参加しました。

## 第8回 沖縄県公文書館運営懇話会

平成13年12月12日に第8回沖縄県公文書館運営懇話会が開催され、懇話会の一般公開及び沖縄県公文書館の利用促進についての意見交換が行われました。

## 講演会・講座

平成13年11月2日に第51回歴史講座（講師：野々村孝男氏 演題：「写真にみる近代の沖縄」）、平成13年11月5日に第20回公文書講演会（講師：仲本和彦 当館公文書専門員 演題：「米国における沖縄関係資料の収集と整理」）、平成13年11月16日に第21回公文書講演会（講師：高橋実氏 演題：「沖縄返還の舞台裏」）を開催しました。



# 尚巴志を任命する勅

伊平屋移動展において、伊平屋島から佐敷に移住してきたと言わわれている鮫川大主の息子にあたる思紹、孫にあたる尚巴志に関する史料を2点展示しました。この中の中国皇帝から尚巴志あてに出された勅(1425年)を紹介します。

(校訂文・訳文:孫薇総括嘱託員)

## 校訂文

洪熙元年二月初一日 再對正之

皇帝勅諭琉球國中山王世子尚巴志。昔、我天命、統御萬方、恩施一視、遠近歸仁、爾父——琉球天皇太宗文皇帝、恭膺天命、統御萬方、恩施一視、遠近歸仁、爾父——琉球中山王——思紹、聰明賢達、茂篤忠誠、敬天事上、益久弗懈、朝貢有常、罔愆子職。我天命、統御萬方、恩施一視、遠近歸仁、爾父——琉球天皇嘉乃勤欵、良用褒錫。肆朕續承大統、弘敷治化、尤重繼承。念爾父告終已逾再歲、非有嗣嫡之賢、曷膺傳襲之重、茲特遣內官柴山、賚勅諭爾。世子尚巴志、爲琉球國中山王、以繼其世。於戲、尚立忠孝、恪守藩服、脩德務善、以福一國之人。則爵祿之榮、延于無窮、尚其祇承朕命、無怠無忽、故茲勅諭、宜體至懷。

## 歴代宝案1-1-05



琉球王国時代に編集された歴代宝案原本を、昭和8年に鎌倉芳太郎氏が久米の天尊廟において青焼きで写し撮って保存したもので、原本の内容を知ることができる貴重な史料である。

## 訳文

皇帝が勅(辞令書の一つ)を以つて琉球國中山王の世子(正当な後継者)である尚巴志を諭す。昔、我が父親であり、亡くなつた太宗文皇帝が恭しく天命を受け、萬方を統御し、恩を施し、萬方を同じように見ていた。天下遠くも近くもが仁に傾いている。あなたの父親である琉球中山王の思紹は、聰明で、賢く、物分かりがよかつた。忠誠に篤く、天を敬い、上に事えることも、ますます久しくなり、懈まぬものであつた。朝貢も常あり、自分たちの職務に対し、怠つたこともなかつた。我が父親であり、亡くなつた皇帝があなたたちの勤勉さをよしとし、良く褒美と下賜を用いた。ここにて、朕(皇帝専用の自称)が大統を受け継ぎ、治化(治めと教化)を弘く敷き、繼承をもつとも重んじる。あなたたちの父親が終りを告げられ、すでに二年もたつてゐる。嫡に後を嗣がせるという賢さがなければ、いかにして襲位の重要さを果たせるものか。ここにて、わざわざ、内官の柴山を遣わし、勅をもたらし、世子であるあなた——尚巴志を琉球國中山王に命じる。以つて、其の世を継ぐものである。ああ、なお、君への忠心と親への孝行を立て、恪く藩服(という最も遠い地域)を守り、徳を修め、善に勤め、以つて一国の人たちに福をもたらしなさい。このことができれば爵位と祿の榮えは、限りなく広がっていくのである。また、怠ることも、忽かにすることもせずに、ただ、朕の命を承るものである。故に、ここにて、勅をもつて、諭す。朕の至上の懐を理解してもらいたいものである。

洪熙元年二月初一日 再び、之を照合し、訂正する」と

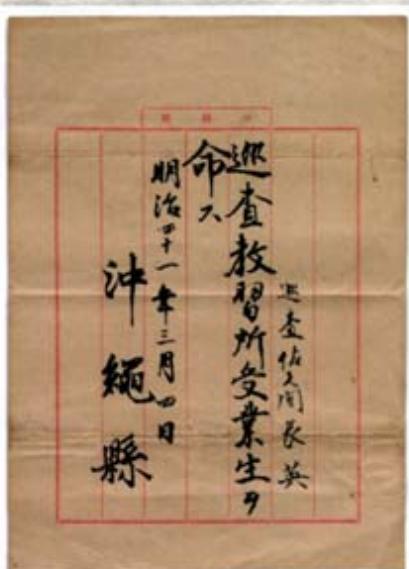
## 辞令書特集

## 辞令書は語る

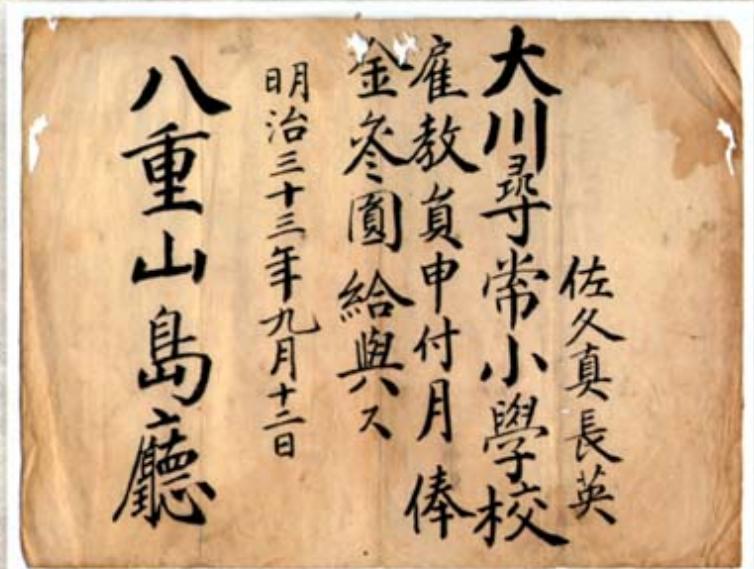
平成13年8月20日に名嘉地義昭(なかち よしあき)氏より寄贈された58点の資料から、明治・大正期の辞令書と証書の9点を紹介します。最も古いものは明治33年の八重山島府から佐久眞長英(さくま ちょうえい)に発令した「大川尋常小学校の雇教員を申付ける」旨の辞令書から、新しいものとしては、大正7年の沖縄県から巡査、佐久眞長英宛に発令された給与辞令があります。

これらの辞令書からもわかるように、朱印の「沖縄縣印」の押されたものや、桐や桜の紋様のすかしの入った用紙が使用されているもの等、変遷のあとが窺えます。また、大正2年に沖縄縣知事、高橋琢也から沖縄縣巡査、佐久眞長英に出された「巡査 精勤証書」は、部分的に職名、氏名及び知事名等が朱書きになっていたり、朱印が押されているなどの特徴があります。

佐久眞長英氏の辞令書等は、私たちに何を語りかけてくれるでしょうか。



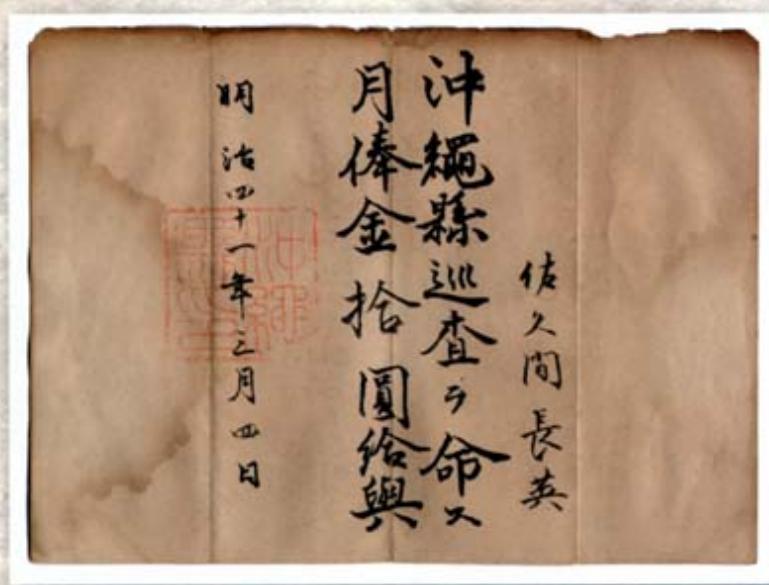
明治41年3月4日（発令）沖縄縣  
「沖縄縣巡査を命ず」



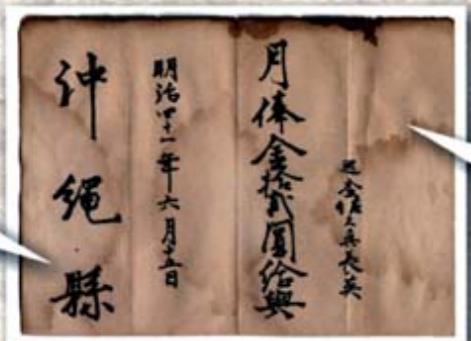
明治33年9月12日（発令）八重山島廳  
「大川尋常小學校雇教員」



明治41年6月15日（発令）沖縄縣巡査教習所  
「巡査教習科程卒業証書」



明治41年3月4日（発令）沖縄縣  
「沖縄縣巡査を命ず」



明治41年6月15日（発令）沖縄縣

「給与辞令」

大正2年10月23日（発令）沖縄縣  
「給与辞令」大正4年9月16日（発令）沖縄縣  
「給与辞令」大正2年10月22日（発令）沖縄縣知事高橋啄也  
「巡查精勤証書」大正5年12月13日（発令）沖縄縣  
「巡查部長を命ず」

## 「辞令書」って何でしょう？

官職の任免の際、職名や給与を書いて本人に渡す書付で、公職についている人にとって最も身近な公文書です。個人の足跡を辿るだけでなく、様々な歴史的事実を測ることのできる貴重な資料です。紙の質・印影・記載方法などの材料や様式、また記載内容から、当時の職制や給与額など、経済情勢の一端を伺い知ることもできます。我が県において辞令書は、琉球王府が発給した辞令書も残存しており、その歴史は古いものがあります。

利用者の声



いけだ せいいちろう  
池田 征一郎 氏

(福岡県在住・元船医)

調べる樂しさ！発見の喜び！！

域は知らなかつた。今度の展示会で幸い探していた船会社名、就航した客船名がわかり、また旧南洋群島も沖縄と深い何かわりがあることがわかつて感激した。この新聞記事をコピーするために閲覧室に上ると、職員から「お探しの資料はあ

この度、沖縄出張の折、公文書館で行われている「旧南洋群島と沖縄県人」(※)の資料展を見に行つた。小生は、船舶から投函された「はがき」や「封筒」に関心があつて移民船に関する何らかの情報が得られるかもしれない期待していたからである。昔、船医として船の上で勤務していた頃、船の動きや人の交流、物の流れを郵便物に押印された消印や標示印から読みとることを楽しみにしていた。大きな客船に

は船内郵便局を開設し、郵便職員を配置しているものもある。郵便職員のいない船はバーサー（事務長）が寄港地の郵便局へ郵便物を引き渡すことになっている。船員が寄港地郵便局と郵便物の引受・引渡しを行うことになつており、日本船籍の船は日本切手が通用する。それはそ

の船は日本切手が通用する。それにその国の船は、その国の延長とみなされるからである。消印をみると船内局取り扱い郵便物であるのか、パーサー取扱いの郵便物なのか一目でわかる。外地引受郵便局の消印で押印された郵便物は、船舶取扱の表示(PAQUEBOT, NAVIRE, 船)が押印されている。

移民船の話にもどるが、沖縄の人々の  
移住先は、フィリピン、ハワイ、南米はよく  
知られているところだが、旧南洋庁の地



船内局取扱郵便(さんとす丸船内郵便局)

戦争や台風などの災害で、郵便物は散逸してしまう可能性もあるが、船舶差し出し郵便物は世界をかけ巡るため、たとえ沖縄で発見できなくとも、移住先で、また他の国々で発見できるかもしれない。と今回の展示展を見て小生の夢がさらに大きくなつた。

折角、沖縄へ出張したのだから業務の他になにか沖縄のこと学んでみたいと公文書館を訪れたのであった。最初来館した時は、沖縄では軽便鉄道が戦前まで走つており、郵便車はないにしても、たぶん郵便袋を運んでいたのでは?という疑問がありそのことについて調べたいと思ったが、郵便鉄道による郵便輸送について明確な

資料はまだ、見つかっていない。駅舎の見

域は知らなかつた。今度の展示会で幸い探していいた船会社名、就航した客船名がわかり、また旧南洋群島も沖縄と深いかわりがあることがわかつて感激した。この新聞記事をコピーするために閲覧室に上ると、職員から「お探しの資料はありましたか?」と声をかけられた。小生は、沖縄の移民船とその船から差し出された郵便はがきや封筒について調べていることを話し、まだまだわからない点が残されていることを話すと、職員から、「宮古群島政府印」の印影を収集した時のことを開かされた。以前、「公文書館だより」アーカイブズの表紙に戦後沖縄の行政機関の公印の印影を掲載したが、その時に少々期待している。

くて、その部分だけ空白のまま掲載したのである。後になって、地元の人からの情報提供があり見つけだすことができたことを聞いた。「よかつた! よかつた!」と小生も嬉しくなつた。長年探していた資料を発見する喜びを共有させてもらった。小生が郵便物である葉書や消印というものであるのに対して「公印の印影」という対象は異なるが、資料を調べていくと人々の出会いと協力なしには得られないということは同じであることを実感した次第である。今回この「利用者の声」に書かせた方から何か情報を得られないものかと聞いていただくようになつたのも、これを読んでもう一つの「利用者の声」である。今後この「利用者の声」に書かせたい。今後この「利用者の声」に書かせたい。

取扱、軽便の年度会計、更に沖縄県と郵政官庁との間に交わした郵便輸送の契約書(?)、郵政公報といった資料があるかどうか。実際当時業務された鉄道職員や郵便職員の聞き取りができるかどうかなど、沖縄に来る楽しみがあり、資料への興味は尽きない。



## 香港地局取扱郵便(シンガポール局)

## 卵を育てる

アメリカの学校では小さい頃から、物を書く訓練を徹底的にやらせます。我が家は四年生の娘も、毎週のように、「描写」、「説得」、「比較」などのエッセイの宿題を持ち帰ってくるため、木曜日の晩はそれをチェックするのが親の役目となっています。こうした学校における徹底した作文指導は、アメリカの場合、大学まで続きます。

今回は、メリーランド大学が国立公文書館と協力して行なったユニークなゼミについてご紹介したいと思います。

まず、このゼミのユニークさは、全米から公募した担当講師の部屋とゼミの教室を公文書館内に設けた点に見られます。これで、このゼミが何を重視したものかがすぐお分かりいただけるでしょう。学生は、四ヶ月の学期のうち、最初の一ヶ月こそ指定図書を使つたモデル・アプローチ学びに費やしますが、残りの三ヶ月は、公文書館の収蔵資料を使つたりサーキュレーションに取り組むのです。リサーチの段階になると、アーキビストがゼミに出向いて、テーマに関連する収蔵資料の概要、最新資料の紹介、閲覧・検索方法などを丹念に説明してくれます。こうして学生は、一次資料を使つた本格的な論文執筆に挑戦するのですが、国立公文書館にはまだ日の目を見ない資料がたくさん眠っていますから、優秀な学生

の論文からは、全く新しい研究成果が出されることも少なくありません。

元々、産官学の交流が盛んなアメリカですが、米国国立公文書館は、九年前にメリーランド大学の敷地内に新館をオープンして以来、このような形で大学とさまざまな共同企画を行ってきました。公文書館職員の大学での再教育、学生のインターネットの受入れ、各種学会、セミナー、シンポジウムの共催など、枚挙にいとまがりません。その中でもこのゼミは、公文書館の利用普及を図るという点から、注目に値するものだと思います。

公文書専門員 仲本和彦



米国国立公文書館(カレッジパーク)

資料群名	資料の作成年	全体数	収集数
USCAR文書	1950～1972	約3,200,000枚	約2,400,000枚
その他沖縄の統治に関する米国政府文書	1945～1972	2,773箱以上	約1,600フォルダー
米軍撮影空中写真(沖縄戦・占領初期)	1944～1947	2,700枚以上	894枚
沖縄占領関係写真	1945～1972	100,000枚以上	16,000枚
USCAR広報局作成映像フィルム	1950～1972	約2,300件	100件
沖縄戦映像フィルム	1944～1972	600件以上	0

## 豆知識

## 米国国立公文書館と沖縄関係資料

米国の首都ワシントンDCにある米国国立公文書館は一九三五年に建てられました。その後、一九九三年にはワシントンDCに隣接するメリーランド大学から提供された敷地に立つ地上六階地下一階の建物には、文書閲覧室(二階)、参考資料室(三階)、地図・図面閲覧室(三階)、映像フィルム、映像音声資料閲覧室(四階)、マイクロフィルム閲覧室(四階)、資料閲覧室(五階)、電子記録閲覧室(六階)、非公開文書特別閲覧室(六階)が配されています。一階にはカフェテリアや売店などが、地下には利用者用ロッカールームなどがあります。

沖縄県公文書館が平成九年度より実

施してきた調査により、アーカイブズIIには沖縄戦と米国の沖縄統治に関する文書や写真、映像フィルムが数多く保存されていることがわかつています。当館ではこれらの資料群中、沖縄住民の暮らしに関する資料を収集対象とし、マイクロフィルムや写真フィルム、映画フィルム等で複製して収集していくまです。平成十四年一月現在収集数は次のとおりです。

## ●歴史講座の案内

テーマ:「歴史から見た東アジアと沖縄」会場:沖縄県公文書館 講堂 入場無料・予約不要

日時	演題	講師
平成14年1月25日(金)午後6時30分~8時	「近世における琉球と中国」	名嘉 正八郎(元沖縄県教育庁参事)
平成14年2月 1日(金)午後6時30分~8時	「西欧文献にみる東アジアと沖縄」	山口 栄鉄(沖縄県立看護大学教授)
平成14年2月 8日(金)午後6時30分~8時	「朝鮮王国と琉球王国」	津波 高志(琉球大学教授)
平成14年2月15日(金)午後6時30分~8時	「東アジアと沖縄」	高良 倉吉(琉球大学教授)
平成14年2月22日(金)午後6時30分~8時	「琉球王国と中国」	井上 秀雄(沖縄県立芸術大学教授)

## ● ARCHIVESバックナンバーをホームページにて公開

沖縄県公文書館だより「ARCHIVES第1号~第16号」までを当館ホームページで閲覧することができます。

### ● 入館無料

### ● 開館時間

09:00~17:00(閲覧請求は16:30まで)

### ● 休館日

①月曜日

②国民の祝日(昭和23年法律第178号)に規定する

休日(月曜日と重なる場合は火曜日)

③12月28日~翌年1月4日(年末年始)

④6月23日(慰霊の日)

⑤特別整理期間(年間20日以内で館長の定める日)

### ● 利用施設

#### <展示室 閲覧展示棟1階>

公文書等を展示して企画展、常設展を開催しています。

#### <講 堂 閲覧展示棟1階>

講演会、講座、映写会等を開催しています。

#### <閲覧室 閲覧展示棟2階>

資料の閲覧ができる他、ミニシアター(団体用)、ビデオベース(個人用)で映像資料をご覧になれます。

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

日	月	火	水	木	金	土
						1
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

(赤色) 休館日

### ● 閲覧室の利用方法

- 初めて利用される方は「利用証」の交付を受けてください。その際は身分証明書の提示をお願いします。
- 利用証をお持ちの方は、閲覧申請をして、資料の閲覧ができます。
- 参考資料室の資料は自由に閲覧できます。
- 閲覧室への所持品等の持ち込みは、制限がありますのでロッカーをご利用ください。
- 資料の館外貸出は行っていません。
- 資料の複写ができます。(複写は実費をいただきます。)
- 担当職員が資料に関する問い合わせ・相談に応じます。

### 交通の案内

バスをご利用のかたは新川バス停下車(徒歩3分)

- ・那覇交通(株)市内線1番
- ・東陽バス(株)91番・96番



アーカイブズ  
沖縄県公文書館だより ARCHIVES 第17号  
発行日 2002年2月11日  
発 行 沖縄県公文書館  
編 集 財団法人沖縄県文化振興会 公文書管理部  
〒901-1105 沖縄県南風原町字新川148-3  
TEL 098(888)3875 FAX 098(888)3879  
URL <http://www.archives.pref.okinawa.jp>